

平成28年度学力定着状況たしかめテスト

中 2 国語 B

解説資料

注：本資料は、国立教育政策研究所発行の解説資料
をまとめ直したものです。

したがって、問題番号、ページ番号等は、全国学
力・学習状況調査の実施時のものとなっています。

国語B 1 資料を作成して発表する（オカリナ）

1 森田さんは、国語の時間に、自分の特技についてスピーチをする学習に取り組んでいます。次は、発表の際に使用する「ノート」と「フリップ」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。（「ノート」と「フリップ」にある①から③は、発表の際に使う順番を表します。）


（注）フリップは説明に用いる、図や絵、言葉などを書いた大型のカード。

【フリップ】

1 **オカリナとは**


- ハトに似た形の笛
- イタリア生まれ

イタリア語では「小さなガチョウ」



ハト

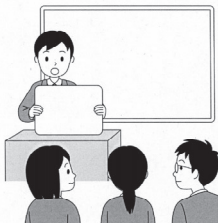
2 **オカリナの特徴**



吹き口
音色は？
材質は？
指穴の数は？

3 **気軽に楽しめる**

- リコーダーと似た指使い
- 持ち運びやすい大きさ
- 簡単な曲ならずぐ吹ける!!



【ノート】

発表の流れ	その他の情報 ※ 状況に応じて使用する
■ 聞き手を見てから話し始める	
○ 始めの言葉	
1 ○ オカリナはハトの形に似た楽器。	
○ イタリアで生まれ世界に広まった。	
○ イタリア語では、「小さなガチョウ」という意味である。	※ ガチョウの頭の形に似ている、体の形に似ているなど様々な説がある。
■ 問いかけて間を置く	
2 ○ 材質は？→素焼きの陶器のものが多い。	※ プラスチックのものもある。
○ 音色は？→吹き口から息を吹き込むと、温かみのある音色が出る。	
○ 指穴の数は？→12個が多い。（表側に10個、裏側に2個）	※ イタリアでは、10個が多い。
3 ○ リコーダーと同じような指使い。	
○ ポケットに入るくらいの大きさ。	※ いろいろな形や大きさのオカリナがある。
○ 簡単な曲ならずぐ吹けるようになり、吹ける曲が増え、ますます楽しくなる。	
■ 質問がないか尋ねる	
○ 終わりの言葉	

一 森田さんが「ノート」の「その他の情報」の欄に書いたことは、どのような場合に役立てることができそうですか。次の1から4までのうち、適切なものを「二つ」選びなさい。

- 1 発表の順番を場の様子に応じて変える場合。
- 2 聞き手から出された質問に答える場合。
- 3 時間に余裕があるときに付け足して説明する場合。
- 4 言葉の抑揚や強弱、間の取り方を変える場合。

二 次は、フリップを作成する際の「ポイント」です。森田さんが取り入れていることとして適切なものを、「ポイント」のAからEまでの中から「二つ」選びなさい。

【ポイント】

- A イラストや写真などを用いて、視覚的に分かりやすくする。
- I 複雑なデータを、グラフや表を使って整理する。
- ウ 要点を整理し、伝えたい内容を短い言葉で示す。
- E 資料を引用するときは、出典を明示する。

三 森田さんは、聞き手に一層興味をもってもらうために、発表の中で、オカリナを実際に演奏することにしました。あなたなら、どのタイミングで演奏しますか。次の〈演奏するタイミング〉のA、Bから「二つ」選び、①②の〈演奏するタイミング〉を選んで「演奏するタイミング」をお選びください。その〈演奏するタイミング〉を選んだ理由を、あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈演奏するタイミング〉

- A 「フリップ」②の説明のとき
- B 「フリップ」③の説明のとき

- 条件1 「ノート」の内容と結び付けて、理由を具体的に書くこと。
- 条件2 五十文字以上、八十文字以内で書くこと。

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。



実際にオカリナを演奏する

←選んだ〈演奏するタイミング〉を塗り潰しなさい。

①フリック ②の説明のとき ③フリック ④の説明のとき

1. 出題の趣旨

- ・ 状況に応じて、資料を活用して話すこと
- ・ 効果的な資料を作成し、活用して話すこと
- ・ 資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書くこと

各教科等における言語活動の充実が進み、ポスターセッション、プレゼンテーションなどの口頭発表の機会が増えている。このような状況の下、国語科においては、より実践的な学習をすることが求められている。

本問では、自分の特技についてスピーチをする場面を設定した。発表に必要な情報を分類、整理し、聞き手の理解を促すために資料を作成したり、聞き手の興味を引き出すために効果的な工夫を考えたりすることを求めている。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第2学年〕 A 話すこと・聞くこと

ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。

2. 解説

設問一

趣旨

状況に応じて、資料を活用して話すことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 A 話すこと・聞くこと

ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。 《話すこと》

■評価の観点

話す・聞く能力

解答類型

問題番号		解 答 類 型		正答
1	一	1	2, 3と解答しているもの	◎
		9	上記以外の解答	
		0	無解答	

■正答について

森田さんの【ノート】にある「その他の情報」の欄には、相手や状況に応じて使用することができるように、発表する内容についてのより詳しい情報が書かれている。それらは、予想される聞き手からの質問に答えるための情報、時間に余裕があるとき付け足して詳しく説明したい場合に利用できる情報であることが分かる。

設問二

趣旨

効果的な資料を作成し、活用して話すことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 A 話すこと・聞くこと

ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。 《話すこと》

■評価の観点

話す・聞く能力

解答類型

問題番号		解 答 類 型		正答
1	二	1	ア, ウと解答しているもの	◎
		9	上記以外の解答	
		0	無解答	

■正答について

フリップを作成する際の【ポイント】で挙げた四点は、いずれも大切なものである。その中で、森田さんが取り入れたことは、ハトやオカリナをイラストにして視覚的に分かりやすくすること、【フリップ】の「オカリナの特徴」や「簡単な曲ならすぐ吹ける!!」のように、話の要点を整理したり短い言葉で示したりすることである。

設問三

趣旨

資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書くことができるかどうかをみる。

「4年間のまとめ【中学校編】」では、資料の提示の仕方を工夫し、その方法を説明することに課題があると分析している。そこで本設問では、目的や状況、相手に応じて効果的に資料を提示する工夫について、その理由を、根拠をもって説明することを求めた。聞き手の興味を引き出すための工夫として、オカリナを〈演奏するタイミング〉を選び、その理由を【ノート】の内容と結び付けて説明する力が必要になる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 A 話すこと・聞くこと

ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。 《話すこと》

〔第1学年〕 B 書くこと

ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。

《記述》

■評価の観点

国語への関心・意欲・態度

話す・聞く能力

書く能力

解答類型

問題番号	解答類型	正答
① 三	<p>(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。</p> <p>① AとBのいずれか一つの〈演奏するタイミング〉を選んで、その記号を塗り潰している。</p> <p>② 【ノート】の内容と結び付けて、〈演奏するタイミング〉を選んだ理由を具体的に書いている。</p> <p>③ 五十字以上、八十字以内で書いている。</p> <p>(正答例)</p> <p>・ A 温かみのある音色といっても言葉だけでは分かりづらいと思うので、実際に演奏して聞かせれば、聞き手が音の温かみを実感し、一層興味をもってもらえると思うからです。(79字)</p>	

- ・ A
フリップ②のときにオカリナを吹くところを見れば、吹き口への息の吹き込み方や、指穴を押さえる様子がよく分かり、興味をもってもらえると思う。(69字)
- ・ B
私なら③のときに吹きます。なぜなら、ここで吹けば、オカリナがリコーダーと同じような指使いであることを見せられ、演奏の仕方を理解してもらえます。(75字)
- ・ B
実際に簡単な曲を吹いてみせれば、この曲ならすぐに吹けそうだと思います、聞き手がやってみたい気持ちになるから。(53字)

1	<p>条件①, ②, ③を満たして解答しているもの</p> <p>◎</p> <p>なお、次のものも正答とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 条件②について、〈演奏するタイミング〉で使用する【フリップ】の直前や直後の【ノート】の内容と結び付けて書いているもの (例1) ・ A フリップ①でオカリナの形について説明しているので、フリップ②の始めに実物を見せながら演奏すると、本当にハトの形に似ていることが分かるので興味ももてる。(76字) (例2) ・ A ②の終わりで吹きます。次にリコーダーと同じような指使いであることを説明するので、吹くところを見せておけば、自分もやってみたくて興味ももってもらえると思います。(80字) ・ 条件②について、〈演奏するタイミング〉で使用する【フリップ】以外の【ノート】の内容も含んで書いているもの(例示の下線部は関係箇所) (例3) ・ B ③で演奏すると、リコーダーと同じような指使いであることが分かるし、<u>指穴の数</u>も見せながら分かりやすく説明できるから。(58字)
2	条件①, ②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの
3	<p>条件①, ③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの (例1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A オカリナについて説明するときに、実際にオカリナを見せて演奏する方が聞いていて楽しいと思うからです。(50字) * 【ノート】の内容と結び付けずに〈演奏するタイミング〉を選んだ理由を書いている。

	(例2)	
	・B	
	<p>□2の材質や音色の説明のときに吹くよりも、吹ける曲が増えると楽しくなるという説明のときにオカリナを吹いた方がよいから。(59字)</p> <p>* 〈演奏するタイミング〉を選んだ理由を書いていない。</p>	
	(例3)	
	・B	
	<p>聞き手に実物を見せることで、オカリナがハトやガチョウの形に似ているということを確認してもらえるので、私はフリップ□3の説明のときに演奏します。(71字)</p> <p>* 〈演奏するタイミング〉と選んだ理由がずれている。</p>	
	(例4)	
	・B	
	<p>□3のときに演奏することで、リコーダーと同じような大きさだということがよく分かり、ポケットに入るくらいの大きさだと思ってもらえるから。(67字)</p> <p>* 【ノート】の内容を正しく理解していない。</p>	
9	上記以外の解答	
0	無解答	

3. 学習指導に当たって

(1) 補助的な資料を準備して活用する

スピーチの仕方には様々な形態があるが、いずれの場合も、目的や相手、時間などの条件に応じて、情報を整理して内容を組み立てる必要がある。その際、中心となる情報に加えて、それを補う情報を資料として準備しておくことが一般的である。生徒が行うスピーチにおいても、実物を示すなど、聞き手の理解を促すための資料を準備して活用することが重要である。例えば、聞き手からの質問に回答する場面や、聞き手の反応や時間的な余裕に応じて話を追加する場面などで、補助的な資料を活用するように指導することが大切である。

(2) 資料の提示の仕方を工夫しながら話す

スピーチを行う際には、要点を明らかにし、聞き手に分かりやすく話すことが大切である。そのためには、資料や機器を活用することが有効である。それらを効果的に活用することは、話し手の意図を的確に伝え、聞き手の理解をより深めることになる。

資料の効果について考えるためには、一度作成した資料やその使い方について、リハーサルなどを通して相互に助言する中で修正を加えていくことが重要である。その際、なぜそのように修正するのかという理由を説明するように指導することが大切である。

指導に当たっては、平成22年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B□2□3に係る授業アイデア例、「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」国語－6、国語－11も参考になる。

(参照)

「平成22年度【中学校】授業アイデア例」P. 5, 「平成22年度【中学校】報告書」P. 169, 「4年間のまとめ【中学校編】」P. 88, 「言語活動事例集【中学校版】」P. 29～P. 30, P. 39～P. 40

4. 出典等

【ノート】や【フリップ】は、橋本愛子編著『はじめの一步 オカリナ入門ゼミ』（平成25年9月 自由現代社）などを参考にした。

2 情報を整理する（発光ダイオード）

2 堀川さんは、「発光ダイオード」について調べることになりました。次の文章「A」は、堀川さんが読んだ本の一部です。①から⑥は、段落の番号を表します。①～⑥を読んで、あとの問いに答えなさい。

A

- ① 最近、新しい信号機が増えてきたことに気付いているだろうか。これまでの信号機と違い、新しい信号機には小さな点のようなものがたくさん付いている（写真参照）。この小さな点は、発光ダイオードというもので、省エネルギーという点などから、近年様々な分野で使われるようになってきた。発光ダイオードは「もうすぐヤマト」などの表、「白熱電球」「蛍光灯」に比べ、次世代の明かりとして注目されている。この発光ダイオードの特徴について詳しく見てみよう。
- ② まずは、消費電力が少ないということが挙げられる。発光ダイオードと白熱電球を比較して考えてみよう。白熱電球は、フィラメントに電流を流して光を発生させている。一方、発光ダイオードは、半導体に電流を流して光を発生させる。その際、どちらも熱が発生するのだが、白熱電球に比べて発光ダイオードの方が、発生する熱が少なくて済み、白熱電球よりも効率的に、電気エネルギーを光に変えることができるのだ。
- ③ 次に、小さいということが挙げられる。信号機の写真からも分かるように、発光ダイオードの一つ一つの大きさは、従来の白熱電球に比べてはるかに小さい。この小さいという特徴を生かして、携帯電話の着信ランプや携帯型ゲーム機の光源（バックライト）などに発光ダイオードが多く使われている。
- ④ これまでの電球式信号機では、おおよそ一年に一回電球を交換する必要があった。しかし、発光ダイオード式信号機の場合は、六年から八年に一回で済むと知られている。このように発光ダイオードには、寿命が長いという特徴もある。
- ⑤ 最後に発光ダイオードには、カラー発光する（特定の色の光を出す）という特徴がある。朝や夕方などに太陽の光が当たって、信号機が三色とも光って見えるという状態を「点灯」しないだろうか。これを疑似点灯現象（点灯していないのに点灯しているように見える現象）といい、これまでの電球式信号機に多く見られる現象であった。白熱電球は白色光のため、赤や黄色などの色のついたレンズをかぶせている。さらに反射鏡を利用して、白熱電球の光を一方向に集め、信号機として使用している。この信号機に太陽の光が当たり反射すると、疑似点灯現象が起こる。一方、発光ダイオードは、カラー発光するので、色のついたレンズを使う必要はない。だから、点灯していない色でもついているように見えることは避けられる。このことにより、発光ダイオード式信号機は、交通安全に役立つという効果が期待されている。
- ⑥ 電車やバスの行き先表示をはじめ、町の中や競技場のディスプレイなどにも広く使われるようになってきた発光ダイオード。克服しなければならぬ課題もあるが、今後ますます私たちの身近な存在になっていくだろう。

【発光ダイオード】



※上の発光ダイオードの全長は約35mm、発光部は約9mm。

【発光ダイオード式信号機】



〔注〕 フィラメント＝電球、真鍮管などの内部にあって電流を流し、光や熱などを放出させる金属の細い棒。

一 文章「A」の①段落の役割について述べたものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 多くの具体例を挙げて、自分の考えを読み手に示している。
- 2 自分の主張を最初に述べ、解決策を読み手に提案している。
- 3 何について述べようとしているのかを、読み手に提示している。
- 4 複数の人の考えを紹介して、読み手の興味を引き出している。

二 堀川さんは、発光ダイオードの特徴についてノートにまとめることにしました。文章「A」に書かれている発光ダイオードの特徴を、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

- 条件1 発光ダイオードが次世代の明かりとして注目されていることが分かる特徴を書くこと。
- 条件2 簡潔書きで二つ以上書くこと。

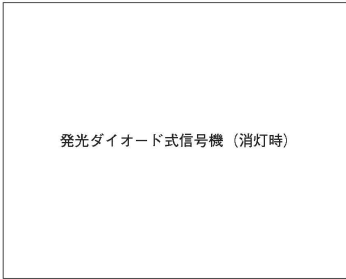
三 堀川さんは、文章「A」で説明されている内容がよく分からないことがありました。さらに調べていく中で、次の図「B」を見付け、理解することができました。文章「A」で堀川さんが分からなかったことは何ですか。「I」を助けるものはどういふことか。」に続くように、文章「A」の中から抜き出しなさい。

B

電球式信号機（消灯時）



発光ダイオード式信号機（消灯時）



1 出題の趣旨

説明的な文章とその補助資料を読んで、次のことができるかどうかをみる。

- ・ 文章の展開をとらえ、段落の役割を理解すること
- ・ 文章から必要な情報を読み取り、簡潔にまとめて書くこと
- ・ 文章と補助資料とのかかわりを理解すること

この問題は、説明的な文章を表現の工夫に注意して読み、必要な情報を整理することができるかどうかをみるものである。また、図を見て、文章の理解を深めることができるかどうかについてもみている。

ここでは、発光ダイオードについて調べる場面を設定した。文章を読んで情報を整理するとともに、文章だけでは理解できなかった内容について、関連する補助資料を参照して理解を深めている。文章や図などの複数の資料を基に、必要な情報を得ることは、国語科のみならず各教科等でも重要である。

2 解説

設問一

■正答について

正答は、選択肢3である。

文章【A】の①段落は、新しい信号機を例に発光ダイオードについて述べ、「この発光ダイオードの特徴について詳しく見てみよう」と以後の文章で述べようとしている内容を提示している。そして②段落以降で発光ダイオードの特徴について述べている。

■誤答について

- (1) 選択肢1↓「自分の考えを読み手に示して」はいないため不適切である。
- (2) 選択肢2↓「自分の主張」を述べたり「解決策」を提案したりはしていないため不適切である。
- (3) 選択肢4↓「複数の人の考え方を紹介して」はいないため不適切である。

設問二

■正答について

正答は、次の二つの条件を満たして解答しているものである。

- ① 文章【A】に書かれている発光ダイオードが次世代の明かりとして注目されていることが分かる特徴を適切に書いている。
- ② 簡条書きで三つ以上書いている。
文章【A】では、発光ダイオードが「次世代の明かりとして注目されている」理由として、②段落から⑤段落にかけて一つずつ、合わせて四つの特徴を挙げている。この問題では、これらを文章からとらえ、簡条書きで三つ以上書く必要がある。

■誤答について

- (1) 「■正答について」に示した二つの条件のいずれか一つでも満たしていなければ誤答とする。
なお、誤答としては、以下のようなものが考えられる。
 - ・ 特徴を三つ以上書いているが、簡条書きではないもの
 - ・ 特徴が二つ以下しか含まれていないものなど

設問三

■正答について

正答は、「疑似点灯現象」（を防げるとはどういうことか。）のように、文章【A】から疑似点灯現象について述べている部分を「」を防げるとはどういうことか。」に続くように抜き出して解答しているものである。

- ・ 図【B】を見ると、電球式信号機では「消灯時」に当たる「日差し」は、「着色レンズ」を通っていることが分かる。これは文章【A】の⑤段落の、電球式信号機は「色のついたレンズをかぶせ」られて「太陽の光が当たり反射」して「点灯していない色までも点灯して見える」ことを表していると考えられる。一方、発光ダイオード式信号機では、「消灯時」に当たる「日差し」は、「無色透明レンズ」を通っていることが分かる。これは、文章【A】の発光ダイオード式信号機は「色のついたレンズを使う必要がない」ことなどを表していると考えられる。
- ・ 文章【A】の⑤段落には、電球式信号機について、「この信号機に太陽の光が当たり反射すると、疑似点灯現象が起こる」とある。また、発光ダイオード式信号機については、「点灯していない色までもついているように見えることは避けられる」と述べられている。これらの文章と補助資料とを結び付けると、堀川さんが分からなかったこととは、疑似点灯現象のことであると分かる。

3 学習指導に当たって

(1) 段落の役割をとらえて読む

説明的な文章を読む際には、段落の役割に注意して論理の展開をとらえ、書き手の意図を考えることが大切である。例えば、文章の目的を提示する段落、具体例を提示する段落、結論を示す段落などをとらえることが文章の理解に役立つ。

(2) 複数の資料を関連付けて読む

各教科等の学習や日常生活において読む文章の中には、図表などが用いられていることが少なくない。それらを適切に活用するためには、文章と図表とを関連付けて読むことによって、情報をより正確に得ることが大切である。グラフや表などから読み取ったことを、言葉で分かりやすく説明する学習を、国語の授業で行っていくことも必要である。

4 出典等

図【B】は、特定非営利活動法人LED照明推進協議会ホームページを参考に作成した。

《出題の趣旨・学習指導要領との関連・評価の観点・正答》

設問	出題の趣旨	学習指導要領との関連	評価の観点	正答
一	<p>文章の展開をとらえ、段落の役割を理解することができるかどうかをみる。</p>	<p>C 読むこと（第二学年及び第三学年） イ 書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること。 《構成や展開》</p>	<p>読む能力</p>	<p>3 何について述べようとしているのかを、読み手に提示している。</p>
二	<p>文章から必要な情報を読み取り、簡潔にまとめて書くことができるかどうかをみる。</p>	<p>B 書くこと（第一学年） イ 伝えたい事実や事柄、課題及び自分の考えや気持ちを明確にすること。 《事柄や意見》 C 読むこと（第一学年） イ 文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること。 《内容把握や要約》</p>	<p>国語への関心・意欲・態度 書く能力 読む能力</p>	<p>《簡条書き例》 ・消費電力が少ない。 ・小さい。 ・寿命が長い。 ・カラー発光する。</p>
三	<p>文章と補助資料とのかかわりを理解することができるかどうかをみる。</p>	<p>C 読むこと（第二学年及び第三学年） オ 目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること。 《情報の活用》</p>	<p>読む能力</p>	<p>《例》 疑似点灯現象</p>
<p>学習指導要領に示されている言語活動例</p>		<p>（読むこと）（ア） 様々な文章を比較して読んだり、調べるために読んだりすること。</p>		

3 物語を朗読する(「二ひきの蛙」)

3 中学生の川名さんは、小学生に「二ひきの蛙」を朗読することになりました。次は、「朗読する物語」と朗読するために気をつけることを書いた「川名さんのメモ」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

川名さんのメモ

- 朗読の仕方工夫
- 理由

「黄色だね」のあとに間を取って、からかうような口調で読む。

はたけてばったりゆきあった二ひきの蛙が、けんかを始めるさっかけになる言葉だから。

朗読する物語

二ひきの蛙 新美南吉

緑の蛙と黄色の蛙が、はたけのまんなかではたりゆきあいました。「やあ、きみは黄色だね。きたない色だ。」

と緑の蛙がいきました。

「きみは緑だね。きみはぶんを美しいと思っているのかね。」

と黄色の蛙がいきました。

こんなふうには話してあつて、よいことは起こりません。「二ひきの蛙はとうとうけんかをはじめました。緑の蛙は黄色の蛙の上にとびかかっていききました。この蛙はとびかかるのが得意でありました。」

黄色の蛙はあとあしで砂をけとばしたので、あいてはたびたび目玉から砂をはらわねばなりません。するとそのとき、寒い風がふいてきました。

二ひきの蛙は、もうすぐ冬のやってくることをおもいました。蛙たちは土の中にもぐって寒い冬をこさねばならないのです。

「春になったら、このけんかの勝負をつける。」

といって、緑の蛙は土にもぐりました。

「いまいったことをわすれるな。」

といって、黄色の蛙もくりこみました。

寒い冬がやってきました。蛙たちのもくっている土の上に、びゅうびゅうと北風がふいたり、霜柱が立ったりしました。

そしてそれから、春がめぐってきました。

土の中になわわっていた蛙たちは、せなかの上の土があたたかくなってきたのでわかりました。さいしよに、緑の蛙が目を見ました。土の上に出ました。まだほかの蛙は出ていません。

「おいおい、おきたまえ。もう春だよ。」

と土の中になわわってよびました。

すると、黄色の蛙が、

「やれやれ、春になったか。」

と、土から出てきました。

呼びかけるように、句読点ではっきりと区切って読む。

待ちかねていた春が来て、土の上に出てみると、けんかの相手である黄色の蛙がまだ起きていなかったから。

「わすれたか」の「か」を挑発するように強く読む。

冬眠の前に「わすれるな」と言っていた黄色の蛙のんびりと出てきたので、けんかのことを思い出させようとしているから。

去年のけんか、わすれたか」とと緑の蛙がいきました。「待って待って。からだの土をあらいおとしてからにしようぜ」と黄色の蛙がいきました。二ひきの蛙は、からだから泥土をおとすために、池のほうにいきました。池には新しくわきて、ラムネのようにすがすがしい水がいっぱいいたたえられてありました。そのなかへ蛙たちは、とふんとふんとびこりました。からだをあらうから緑の蛙が目をぱちくりさせて、「やあ、きみの黄色は美しい。」といいました。

「そういえば、きみの緑だってすばらしいよ。」

と黄色の蛙がいきました。

そこで二ひきの蛙は、

「もうけんかはよそう。」

といいました。

よくねむったあとでは、人間でも蛙でも、きげんがよくなるものであります。
〔新美南吉「二ひきの蛙」による〕

この物語について説明したものと、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 二ひきの蛙が協力して困難を乗り越える様子を、音を表す言葉を用いてリズムよく書いている。
- 二ひきの蛙が人も蛙も同じ生物だと悟る様子を、動作を表す言葉を用いて客観的に書いている。
- 二ひきの蛙が友情を再確認していく様子を、緑の蛙の立場から話し言葉を用いて書いている。
- 二ひきの蛙がけんかをして仲直りする様子を、会話を多く用いて平易な言葉で書いている。

この物語に描かれている季節を、次の1から4までの中からすべて選びなさい。

- 春
- 夏
- 秋
- 冬

2 解説

設問1

■ 正答について

正答は、選択肢4である。

この物語は、二ひきの蛙がけんかをして仲直りする様子が対話を中心とした子ども向けの文章で描かれており、会話が多く用いられていること、平易な言葉で書かれていることが表現の特徴として挙げられる。

■ 誤答について

- (1) 選択肢1 ↓二ひきの蛙が協力して困難を乗り越える様子は書かれていない。
- (2) 選択肢2 ↓二ひきの蛙が人も蛙も同じ生物だと悟る様子は書かれていない。
- (3) 選択肢3 ↓二ひきの蛙が友情を再確認していく様子は書かれていない。また、緑の蛙の立場から書かれた物語ではない。

※ 平成十九年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A③②では、比喩等の表現技法に注意して内容を捉えることができるかどうかをみる問題を出題している。
(正答率 七二・一%)

※ 平成十九年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B②①では、作品の内容や表現上の特徴を捉えることができるかどうかをみる問題を出題している。
(正答率 八一・八%)

※ 平成二十二年全国学力・学習状況調査【中学校】国語A⑤②では、文章の特徴を捉えることができるかどうかをみる問題を出題している。
(正答率 七六・七%)

三 川名さんは、緑の蛙が話した言葉の朗読の仕方について考えています。あなたなら、「一ひきの蛙」をどのように工夫して朗読しますか。あなたの考える朗読の仕方と理由を、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「川名さんのメモ」の書き方を参考にし、○には朗読の仕方の工夫を、▼にはその理由を書きなさい。

条件2 ▼は、物語の内容を踏まえ、物語中の言葉を使って書くこと。

条件3 ○は、十五字以上、三十字以内で、▼は、四十字以上、六十字以内で書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

▼	○
40	30 15
60	30 15

1 出題の趣旨

物語を朗読する際に、次のことができるかどうかをみる。

- ・ 物語の展開や表現の特徴を捉えること
- ・ 物語の場面の展開を捉えること
- ・ 物語の内容や登場人物の言動の意味などを捉え、自分の考えを書くこと

ここでは、朗読するという目的をもって、「二ひきの蛙」の読み方の工夫を考える場面を設定した。

「二ひきの蛙」を読んで、物語の展開や表現の特徴を捉えることと、物語の内容や登場人物の言動の意味などを捉え、朗読の仕方の工夫を考えて書くことを求めている。

設問二

■正答について

正答は、選択肢1、3、4である。

「寒い冬がやってきました。」とあることから、物語の始まりは秋であることが分かる。また、「春がめぐつてきました」とあることから、物語が春の場面で終わっていることが分かる。これらのことから、この物語は秋、冬、春と場面が展開していることが分かる。

設問三

■正答について

正答は、次の四つの条件を満たして解答しているものである。

① ○に、朗読の仕方の工夫を適切に書いている。

* ○に、物語についての解釈などが含まれている場合は、物語の内容及び▼の内容と照らし合わせてその記述の適否を判断する。

② ○は、十五字以上、三十字以内で書いている。

③ ▼に、物語の内容を正しく理解した上で、物語の中の言葉を使って、朗読の仕方の工夫の理由を適切に書いている。

④ ▼は、四十字以上、六十字以内で書いている。

* ○だけ解答している場合は、条件①、②を判断し、解答類型6か解答類型9とする。

〔正答例は、解答類型を参照のこと。〕

緑の蛙が話した「やあ、きみの黄色は美しい。」という言葉を朗読するに当たっては、物語の内容を正しく理解し、緑の蛙の気持ちについて自分の考えをもつ必要がある。

このことを踏まえて、○に朗読の仕方の工夫が具体的に書かれているもの、▼に朗読の仕方の工夫の理由が適切に書かれているものを正答とする。

なお、次のものも正答とする。

条件①、②、③、④を満たした上で、▼に、本文の内容と矛盾しない範囲で自分の感想などを付け足して書いているもの

(例示の傍線部は関係箇所) (解答類型1)

(例) ○ すっきりした気分が伝わるように、弾むような声で読む。(二十七字)

▼ 緑の蛙は冬眠してすっかり機嫌がよくなり、泥土を洗い落とした黄色の蛙が美しく見えたから。よく眠るのは気持ちがいいと思う。(六十字)

■誤答について

「■正答について」に示した四つの条件のいずれか一つでも満たしていなければ誤答とする。

誤答としては、例えば、次のようなものが考えられる。

・ 物語の内容を正しく理解していないもの (解答類型3)

(例) ○ 「きみの黄色は美しい」を高く大きな声で読む。(二十三字)

▼ 「春になったら、このけんかの勝負をつける。」と勢い込んでいた緑の蛙が、黄色の蛙とのけんかに敗れて言った言葉だから。(五十八字)

・ 理由を適切に書いていないもの (解答類型3)

(例) ○ 蛙の気持ちになって、明るく大きな声で読む。(二十二字)

▼ 池には新しくわきでて、ラムネのようにすがすがしい水がいっぱいいたたえられてあり、そのなかへ蛙たちは、とびこんだから。(五十九字)

* 引用に終始し、理由として適切ではない。

・どのように朗読の仕方を工夫するのか明確ではないもの

(例) ○ 目をぱちくりさせるときのように読む。
(解答類型5) (十九字)

▼ 最初は「きたない色だ。」と言っていたのに、黄色の蛙がきれいになったことに気付き、「目をぱちくりさせて」いるから。
(五十七字)

・本文を改変しているもの (解答類型5)

(例) ○ 「美しい」の前に「本当に」を加えて読む。

(二十一字)

▼ よく眠ったことで機嫌がよくなり、黄色の蛙が本当に美しく見えるようになったから。
(四十字)

・朗読の仕方の工夫は適切に書いているが、理由が書かれていないもの (解答類型6)

(例) ○ さわやかな気分が伝わるように、高く大きな声で読む。
(二十六字)

▼ (記述なし)

このように解答した生徒は、朗読の仕方を工夫することはできているが、読み取った文章の内容を、朗読の仕方の工夫の理由と結び付けて説明することができていない。これを解答類型の一つとすることで、生徒の学習状況の把握に役立てることができる。

※ 平成十九年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B【2】ア、イでは、作品の展開や心情の変化に着目して朗読することができるかどうかをみる問題を出题している。(正答率 六九・四%)

3 学習指導に当たって

(1) 様々な言語活動を通して文学的な文章を主体的に読む

文学的な文章を主体的に読むためには、目的をもつことが大切である。例えば、朗読するという目的をもつて文章を読むことで、場面の展開や表現の特徴などを主体的に捉えることができるようになる。同様に、小学生に読み聞かせをする、友達に作品のよさを紹介する、作品の続きを創作するなどの言語活動も、中学生が目的をもって文学的な文章を読む上で有効である。

(2) 朗読を通して読みを深める

朗読の仕方の工夫をする際には、叙述に即して内容を捉えた上で、登場人物の心情などを考える必要がある。読み取ったことに基づいて朗読の仕方を工夫し、実際に声に出して読みながら、その工夫が適切かどうかを吟味することで読みを深めることができる。また、自分が考えた読み方の工夫やその理由などについて意見を交流することは、読みを一層深めていくことにつながる。

指導に当たっては、国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 国語】』（平成二十三年十一月 教育出版）の次ページの事例も参照してほしい。

4 出典等

新美南吉「二ひきの蛙」(『ごんぎつね』昭和六十三年七月 大日本図書)による。

(1) 【読む能力】①における評価の実際

【生徒Wの「朗読シート」への記入の状況】

強く	「おまえは、エーミールのところに行かなければなりません。」と、母はきっぱりと言った。
弱く	「そして、自分でそう言わなくてはなりません。それよりほかに、どうしようもありません。おまえのもっているものうちから、どれかを埋め合わせにより抜いてもらうように、申し出るのです。そして、許してもらうように頼まなければなりません。」
強く	「あの模範少年でなくて、ほかの友達だったら、すぐにそうする気になれたらう。彼が、僕の言うことをわかってくれないし、おそらく全然信じようもしないだろうというのを、僕は前もってはっきり感じていた。そのうちに夜になってしまったが、僕は出かける気になれなかった。母は、僕が中庭にいるのを見つけて、
強く	「今日のうちでなければなりません。さあ、行きなさい。」
弱く	「エーミールは？」
強く	と尋ねた。彼は出てきて、すぐに、だれかがクジャクヤマユをだいなしにしまった、悪いやつがやったのか、あるいは猫がやったのかわからない、と語った。僕は、そのちようを見せたくれ、と頼んだ。二人は上上がった。彼はほうそくをつけた。僕は、だいなしになったちようが展翅板の上に載っているのを見た。エーミールがそれを縛うために努力した跡が認められた。壊れた羽は残念に広げられ、ぬれた吸い取り紙の上に置かれてあった。
強く	「よしもなかった。悪角もやはりなくなっていた。そこで、それは僕がやったのだ、と言いきわしく話し、説明しようとした。

〈事例3 『少年の日の思い出』を朗読しよう～自分のものの見方や考え方を広げる～〉の一部

■新学習指導要領では

第一学年「書くこと」では、「ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。」という指導事項が示されている。第一学年「読むこと」では、「ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立つこと。」「エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。」という指導事項が示されている。なお、本設問に関連する言語活動例としては、「ア 様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。」がある。

《出題の趣旨・学習指導要領との関連・評価の観点・正答》

設問	一	二
出題の趣旨	物語の展開や表現の特徴を捉えることができるかどうかをみる。	物語の場面の展開を捉えることができるかどうかをみる。
学習指導要領との関連 〔※〕 左側は、各設問に関連した新学習指導要領〕	<p>C読むこと（第二学年及び第三学年） ウ 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。 《表現の仕方》</p> <p>〔※〕 C読むこと（第一学年） エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。《自分の考えの形成》</p>	<p>C読むこと（第一学年） ウ 文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること。 《構成や展開》</p> <p>〔※〕 C読むこと（第一学年） ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。 《文章の解釈》</p>
評価の観点	読む能力	読む能力
正答	4 二ひきの蛙がけんかをして仲直りする様子を、会話を多く用いて平易な言葉で書いている。	4 3 1 冬 秋 春

設問	出題の趣旨	学習指導要領との関連	評価の観点	正答
三	物語の内容や登場人物の言動の意味などを捉え、自分の考えを書くことができるかどうかをみる。	<p>学習指導要領との関連</p> <p>〔※〕 左側は、各設問に関連した新学習指導要領</p> <p>〔※〕 B書くこと（第一学年） ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。 《記述》</p> <p>〔※〕 C読むこと（第一学年） ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。 《文章の解釈》</p>	<p>国語への関心・意欲・態度</p> <p>書く能力</p> <p>読む能力</p>	<p>〔例〕</p> <p>○ さわやかな気分が伝わるように、高く大きな声で読む。（二十六字）</p> <p>▼ 緑の蛙も黄色の蛙も池の水で泥土を洗い落としてきれいになり、体だけではなく気持ちもさっぱりしたから。</p> <p>〔その他の正答例は、解答類型を参照のこと。〕</p>
<p>学習指導要領に示されている言語活動例</p> <p>〔※〕 左側は、本設問に関連した新学習指導要領に示されている言語活動例</p>		<p>目的や必要に応じて音読や朗読をすること。</p> <p>〔※〕 様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。（第一学年）</p>		